

**主題：**

**主の回復の目標——一人の新しい人を生み出す**

メッセージ 5

**一人の新しい人のために、  
キリストの平安にわたしたちの心の中で裁定させ、  
キリストの言をわたしたちの内に豊かに住ませ、  
うまずたゆまず祈る**

聖書：コロサイ 3:15-17, 4:2-3

コロ 3:15-17——そして、キリストの平安に、あなたがたの心を裁定させなさい。この平安のためにあなたがたも、一つからだの中で召されたのです。そして感謝にあふれていなさい。知恵を尽くして、キリストの言をあなたがたの内に豊かに住ませ、詩と詩歌と霊の歌とをもって、互いに教え戒め合い、恵みをもって、心から神に向かって歌いなさい。また、あなたがたは何をするにしても、言や行ないにおいて、すべての事を主イエスの御名の中で行ない、彼を通して父なる神に感謝をささげなさい。

コロ 4:2-3——うまずたゆまず祈り、感謝しつつ祈りの中で目を覚ましていなさい。同時に、わたしたちのためにも祈ってください。それは、神が御言のためにわたしたちに門を開いてくださって、わたしたちがキリストの奥義を語るができるためです(この奥義のために、わたしもつながれているのです)。

**I. わたしたちはキリストの平安に、わたしたちの心の中で裁定させる必要があります——コロサイ 3:12-15, エペソ 2:14-18, ローマ 5:1, マタイ 18:21-35：**

- A. 「裁定する」というギリシャ語はまた、「審判する、つかさどる、あらゆる事の支配者、決定者としての位に就く」とも訳すことができます。キリストの裁定する平安は、すべての人に対するわたしたちの不満を解決します——コロサイ 3:13。
- B. わたしたちはしばしば、内側に三当事者がいることに気づきます。それは積極的な当事者、消極的な当事者、中立的な当事者です。このゆえに、内側の裁定が、わたしたちの内側の論争を解決する必要があります：
1. わたしたちは、わたしたちの存在の内側の異なる当事者が論争し、口論していると感じるときはいつも、キリストのつかさどる平安に地位を与え、新しい人の一であるこの平安に、わたしたちの内側を支配させて、最終的な言葉を語っていただく必要があります。
  2. わたしたちは自分の意見、観念をわきに置き、内住する審判者の言葉に聞き従う必要があります。
- C. もしわたしたちがキリストの平安にわたしたちの心の中で裁定していただくなら、この平安はわたしたちの間のすべての論争を解決します。そしてわたしたちは垂直には神と平安を持ち、水平には聖徒たちと平安を持ちます：

1. キリストの平安が裁定することを通して、わたしたちの問題は解決し、聖徒たちとの間の摩擦は消えてしまいます。そして召会生活は甘さの中に保たれ、新しい人は実際に維持されます。
2. キリストの平安が裁定するとは、キリストがわたしたちの内側で働いて、わたしたちに対して彼の支配を行使し、最後の言葉を語り、最終判断を下すことです——参照、イザヤ 9:6-7。
3. もしわたしたちが、王となっているキリストの平安の支配の下にとどまっているなら、人を怒らせたり、損なったりすることはありません。そうではなく、主の恵みによって、また彼の平安をもって、わたしたちは人に命を供給します。
4. この平安はすべての信者を一つに結ぶべきであり、結合するきずなとなるべきです——エペソ 4:3。

## II. わたしたちは、キリストの言をわたしたちの内に豊かに住ませる必要があります——コロサイ 3:16-17:

- A. キリストの平安がわたしたちの中で裁定して、わたしたちを「一」と調和とに満ちた状況に保つとき、わたしたちは神の語る場所、神の託宣となります——15-16節、啓 2:1, 7:
1. 神の語りかけは一を要求します。分裂は、神の語りかけを減少させ、完全に停止させさえます——レビ 1:1。
  2. 神の語りかけには一が必要条件であるので、わたしたちはキリストの平安にわたしたちの心の中で裁定していただく必要があります——コロサイ 3:15。
  3. キリストの言がわたしたちの内に豊かに住むことが意味するのは、キリストの言がわたしたちの中で十分な地位を得て、わたしたちの全存在に浸透し飽和するということです。わたしたちがキリストの言にわたしたちの中へと入っていただき、わたしたちの中に住んでいただき、わたしたちの中で勝利を得ていただき、わたしたちの観念、意見、哲学を置き換えていただくことは、極めて重要です——詩 119:130. 参照、啓 21:23. 22:5。
- B. わたしたちは、主の言葉にわたしたちの中で第一位を得ていただく必要があります。それは、わたしたちの内側で活動して、キリストの豊富をわたしたちの存在の中へと供給する神の言葉の機能を、わたしたちが経験するためです——コロサイ 3:16:
1. 神の言葉は、わたしたちを照らし(詩 119:105, 130)、養い(マタイ 4:4, I テモテ 4:6)、水を注いでわたしたちの渇きをいやします(イザヤ 55:8-11)。
  2. 神の言葉は、わたしたちを強め(I ヨハネ 2:14 後半. 箴 4:20-22)、洗い(エペソ 5:26)、建造します(使徒 20:32)。
  3. 神の言葉は、わたしたちを聖別することによって(ヨハネ 17:17)、わたしたちを完成し、完全にし(II テモテ 3:15-17)、成就します。
- C. 神の言葉をわたしたちに住ませることによって、わたしたちは正しい人、すなわち神の属性の実際であるキリストで満たされた神・人になることができます——コロサイ 3:17-25. ピリピ 4:5-8。

### III. わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります——コロサイ 4:2-3：

A. わたしたちは十分な時間を祈りに費やす必要があります。それによってわたしたちは、すべてを含む地としてのキリストの豊富をさらに吸収することができます——1:12, 2:6-7, 4:2：

1. わたしたちは時間を費やして主を吸収し、明確で徹底的な方法で彼と接触する必要があります——ルカ 8:13, マタイ 14:22-23, 6:6。
2. 朝に神と出会うことは、その日の早朝に彼と出会うことだけではありません。それは、光に満ちた状況の中で神と出会うことでもあります。わたしたちは独りで神に行くべきであって、どのような人、事、物にもわたしたちをそらさせたり、占有させたりすべきではありません——箴 4:18, 出 33:11 前半, 34:3-4, マルコ 1:35。
3. わたしたちが祈って、恵みの御座に進み出るとき、恵みがわたしたちの中で川となって流れ、わたしたちを供給します——ヘブル 4:16, 参照、啓 22:1。

B. わたしたちは神の側に立ってサタンに対して戦うために、うまずたゆまず祈る必要があります——ダニエル 6:10：

1. わたしたちは神の側に付く者たちとして、墮落した全宇宙がわたしたちに敵対しており、特にわたしたちの祈りに敵対していることを見いだします。祈りに抵抗するものは、わたしたちの外側にあるだけでなく、わたしたちの内側にさえあります——マタイ 26:41。
2. 祈ることは、墮落した宇宙にある潮流、傾向に逆らうことです——ルカ 18:1-8。

C. わたしたちは祈りのために特定の時間を取っておく必要があります。祈りがわたしたちの最も重要な事であり、何もかも祈りを妨げるべきではないというのが、わたしたちの態度であるべきです——ダニエル 6:10, 使徒 12:5, 12。

D. わたしたちは絶えずわたしたちの霊を活用することによって、祈りの雰囲気の中にとどまる必要があります——エペソ 6:18, I テモテ 4:7, II テモテ 1:7, コロサイ 1:3, 9：

1. わたしたちは絶えず祈り、うまずたゆまず祈り、自分自身を主と親密に結び付けることに保つ必要があります——I テサロニケ 5:17, マタイ 26:41, コロサイ 2:19。
2. わたしたちは最も小さな細かい事でさえ、主に尋ねる必要があります。このように行なうことは、うまずたゆまず祈ることであり、またそれによってキリストを生きることです——参照、ヨシュア 9:14, ピリピ 4:7-8。

IV. わたしたちがうまずたゆまず祈ることを通して、キリストの平安によって支配され、そしてキリストの言を住まわせるとき、主はわたしたちに浸透し、わたしたちをご自身で置き換えます。ついにはわたしたちの天然の区別はすべて除かれ、わたしたちは実際において新しい人となります——コロサイ 3:15-17, 4:2-3, 3:10-11。

2018年国際華語特別集会のための標語

主の回復の目標は、一人の新しい人(団体の、宇宙的な人)を生み出して、  
神の永遠の定められた御旨を完成することです。

一人の新しい人の実際的な出現に対するかぎ  
(古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着ることは、  
わたしたちの思いの霊の中で新しくされることです。

わたしたちは一人の新しい人の団体の生活のために、  
キリストをわたしたちのパーソンとして、  
すべての事でキリストの中へと成長し込み、  
イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶ必要があります。

わたしたちがうまずたゆまず祈ることを通して、  
キリストの平安によって支配され、  
そしてキリストの言を住まわせるとき、  
主はわたしたちに浸透し、わたしたちをご自身で置き換えます。  
ついにはわたしたちの天然の区別はすべて除かれ、  
わたしたちは実際において新しい人となります。

補 9 3 3 (E1325)

えい 遠の過去から永遠の未来まで、  
 時かんをけい過し、御むね成就する。  
 ときの経過のなかで、われらはたびびと。  
 えいえんのためにわれら存在する。

- |   |   |  |
|---|---|--|
| 2 | ひとくみのひとが<br>あたらしいひと、また<br>かみ、いのち、せいしつ、<br>霊と霊をミ <sup>ン</sup> グ <sup>リ</sup> ン <sup>グ</sup> し、 | 建造、調和されて、<br>うつわとされた。<br>そのうつわに入れ、<br>かん喜で満たす。   |
| 3 | かみのご計かくは<br>父、子、霊ご自身を<br>そのはいけいとして<br>霊、たましい、からだの   | 三方向で成就す。<br>われらに分与す。<br>全被造ぶつはある。<br>ひと創造された。  |
| 4 | かみのご計かくの<br>御名を呼びもとめ、<br>中心から円しゅうへと<br>わがころのなか  | 中心はひとの霊。<br>主とミ <sup>ン</sup> グ <sup>リ</sup> ン <sup>グ</sup> される。<br>かみは浸とうして、<br>ホームをつくる。 |
| 5 | いのち、愛のなかで<br>かみはご計かくを<br>わがうちでぞう加し、<br>主、大きく表現する  | ともに建造され、<br>開始し、終わらす。<br>われらを建ぞうし、<br>うつわとなせや。   |
| 6 | しょう会建ぞうされ、<br>えい遠の御むねは<br>かみ、団体のうつわに<br>主よ、御むねのため、  | 御むね完成する。<br>かんせいされる。<br>かみの栄光入れる。<br>われらもちいよ。  |

1 6 5 (E195)

主はささげもの、かみは用意す;  
その意義は甘美、ゆたか、えい光!  
ちちのみこころ、満たし、成就し、  
われのみつようも、すべて満たす!

2 なれははんさい、 火にて焼かれ、  
香ばしいかおり、 かみ、満ぞくす。  
主、御まえに生き、 御むねもとむ、  
きずなきいけにえ、 わがしよくもつ。

3 主はあぶら、乳香、 混ぜた素さい、  
きよく、こまやか、 あまく、かん全。  
なれは平安さい、 平あん成就し、  
かみとひと、ともに なれを享受す。

4 なれはざいさい、 つみとなりて、  
死、通してわれを あがなわれる。  
なれはけんさい、 とがをにない、  
かみの義を満たし、 ゆるし得さす。

5 なれはようさい、 復かつにより、  
ハデス、死、やみに、 しょう利を得る。  
なれ、また挙さい、 しょうてんして、  
てんのパンとなり、 われを満たす。

2 はんさい——全焼のささげ物。

3 素さい——穀物のささげ物、平安さい——平安のささげ物。

4 ざいさい——罪のためのささげ物、けんさい——違犯のためのささげ物。

5 ようさい——揺り動かすささげ物、挙さい——挙げるささげ物

補30 (E1104)

主わが平安さい、わが手を置く。  
 事じつ、実行にて主イエスといち。  
 集会の天まくでなれをささげ、  
 御ちちとともになれをしよくす。  
 (復)キリストは平あん!なれを賛美す!  
 かみとひととの平あん復興す。

- |   |   |  |   |   |  |
|---|---|--|---|---|--|
| 2 | この血、見るとき、<br>平安さいの血は<br>大胆に宣言する、<br>てきどもよ、聞け、               | 何たるへい安。<br>平安もたらす。<br>「主の血で平安」。<br>これぞ勝一利。 | 5 | 揺祭のむね食べ、<br>復かつのなかで、<br>昇天したかたの<br>主のちから得て、 | あまさ享受す。<br>すべてつつむ。<br>挙さいを食べ、<br>ともにあゆむ。                 |
| 3 | 燻 <sup>はん</sup> さいと素さいに<br>平安さいとして<br>人性にあるイエス、<br>団体てきにかれ、 | いま、もとづき、<br>イエスささげる。<br>かれを食べて、<br>ともに享受す。 | 6 | ともに食べる主、<br>これぞ真の交流、<br>われら感謝して、<br>主のかいふくに | 何という豊富!<br>集かいのみち。<br>自 <sup>みづか</sup> はつてきに、<br>みなささげる。 |

(以下は3節のみ歌う)

- |           |   |   |   |
|-----------|---|---|---|
| 何というまじわり、 | かみとひとは!                                     | 平安祭: 平安のささげ物  |   |
| 何というよろこび、 | かみのたみは!                                     | 燻祭: 全焼のささげ物   |   |
| 4         | かみ、あまき分を<br>祭司の家ぞくは<br>ささげる祭司は<br>パンだねなき菓子、 | きよう受される。<br>揺 <sup>ようさい</sup> 祭を食べる。<br>挙 <sup>きよさい</sup> 祭のかたと、<br>最高 <sup>肩</sup> の分得る。 | 素祭: 穀物のささげ物<br>揺祭: 揺り動かすささげ物<br>挙祭: 挙げるささげ物<br>菓子: 輪型の平らなパン |